

令和3年度第1回仙台市青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会議事要旨

日 時：令和4年1月31日（月）

13時30分～16時30分

場 所：青葉区役所7階会議室

出 席：島田委員長、青木副委員長、荒井委員、
加藤委員、齊藤委員、白石委員

※過半数の出席により委員会成立

1 開会

2 挨拶 仙台市青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会 委員長 島田 福男

3 議事

(1) 議事録署名人選定 青木副委員長

(2) 令和3年度まちづくり活動助成事業 事業報告会

◇各団体プレゼンテーション

◇質疑応答、意見等

① 特定非営利活動法人 珀杜

委員 蜂が出るということ心配だったが、無事駆除できたようでよかった。やはり安全に遊ぶことができるというのがすごく大切だと思う。それから自然観察と並行して、ジオラマができた後でもいいのかもしれないが、青陵の森のすばらしさみたいなものを熟知している方がいるという事だったので、その方々がどんなふうに青陵の森で遊んだのかみたいな思い出とか、あと生活との関わり、地域との関わりみたいなものを話してもらえば、非常に面白いのかなと思った。

説明者 そのような場ができれば、もっと地域交流ができて楽しいだろうと思っているので、来年度も助成金を申請させていただいて、活動を膨らませていきたいなど思っている。

委員 学校の学生とか、生徒などにそういう話をすると、余計森に対して親しみを持ってもらえるかなと思う。

委員 自然観察会というのは主にどのような感じでやっていらっしゃるのか。

説明者 児童を相手には子供が好きそうな虫などがメインだった。中高生は青陵中等教育学校など、周りに公立の中学校や高校が5校ほどあるので、学校同士の活動をしてもらいたいなど思っている。虫ではなく植生というか、木について興味を持ってもらうように、伐採までやってみて小枝を切ってみたり、どうして伐採が必要なのかというのを講義していただきながら森の中を一周していた。体力があるので全部回ってもらって、あとは木々で遊びができるように、秋だったので実を使って遊ぶ方

法とか、昔遊びみたいなものがあるというのも教えていただきながら、最後に工作をした。

委員 本当に下草刈りとかそういうのを関わってやっているということなので、そこにある自然の植物が、例えば薬草みたいな形で活用できていたり、取って遊ぶことができたりと、自然と森が生活の身近にあるということも今後教えていっていただけたらうれしいと思う。

委員 報告書の中で自然観察会に触れているが、小学生親子対象の自然観察会が7月にあって、高校生以上の対象として10月に行ったということによろしいか。

説明者 小学生向けは2回あったが、吉成市民センターに主催していただいて、我々ともう1団体が共催ということで行った。我々が主催したのは中高生相手のものと、あとは3月18日に一般市民向けの春の観察会を予定している。野草の芽が出てくる頃なので、ぜひこの時期に入ってもらいたいと思い、年齢対象は設けずどなたでもということで計画している。

委員 そうすると、前回作ったのはメンバーが定期的に入った時に、そのフィールドの中の観察をしたという記録ということか。

説明者 入る時に初めは見ているだけだったが、毎年どの植物が生えてくるのかを、結構忘れるので、それを全部メモしておいて、どんな植物があるかを聞かれた時に答えられないと興味を持っていただけないので、そのために記録している。

委員 コアメンバーとしては大体何名ぐらいずつ集まっているのか。

説明者 1回の活動で代替5人前後である。

委員 11月に三団体合同自然観察会の勉強会とあるが、この三団体というのを教えていただけるか。

説明者 三団体は、吉成市民センターと、そこに所属しているくよみ郷土研究会と我々珀杜である。今年度は三団体活動申請というのが青葉区であったので、市民センターがその申請を三者でしないかというお話をして下さり、市民センターが申請した。その一環で予算があったので、三団体で学ぶ勉強会をしようということで行った。

委員 普段は施錠されていると伺ったが、今でも施錠はされたままか。そうすると利用する場合は学校に届けて利用するのか。

説明者 事務室に使用したいと言うと、鍵を借りて入ることが出来る。

委員 できれば地域の人などが、自由に入るように施錠が取れるといいのかなと思う。

説明者 校長先生ともその件は話したが、もちろんみんなに使ってもらいたいということで今すぐでも解錠したいが、今までが施錠されてきているので難しい。また我々が活動するようになってから気付いたが、野草を根こそぎ取っていく人間がいるという問題がある。誰の物でもないものだが、手入れをしている側から見ると悲しい事実ではある。珍しい植物が下草刈りによって生えるようになったので、何が生えるという目印を我々がつけたところ、それを受けて取られるようになってしまった。最近では目印を違う木にするなど工夫をしている。なのでそういう人間が入るようなところで解錠すると、やはり生徒の安全面でもよくない。もう少し学校や地域の人など、頻繁に入られる方が増えてきたら、そういうことをする人間もやりにくい環境になり、本当の意味で自由に入れるようになるんじゃないかと思う。今はまだ利

用者が少ないので、鍵がまだあった方がいい。ただ実際は周り一帯からどこでも入ってこれるので、多分そういう人間はそういうところから入ってきて、鍵がついているところから入らないと思うが、表向きはということで、今のところは施錠をしている。

委員 自然観察会だが、植物の記録はすごくいいと思うが、鳥や昆虫や動物も植物と共生というか、そういう環境の中で一緒に生きているので、動物も記録に残せたらすばらしいんじゃないかと思う。

説明者 もちろんそれも考えてはいる。記録の予算で2万円ほど計算していたが、印刷屋などに訊いたところ、結構お金がかかるということが発覚した。記録として写真のデータや調べた内容など、情報はたくさん蓄えてはあるが、今年度は冊子を作るまでは至らなかったの、来年度に見送りしようと思っている。ただ、どのような形で作るかで悩んでおり、植物と動物を一緒にするとページ数が増えてしまうので、1年目は植物、2年目は動物など、段階で発行していくのもいいと考えている。

② 一般社団法人 アート・インクルージョン

※欠席のため、質疑応答なし

③ セカハピ団 仙台青葉本部

委員 2点ほどお伺いしたい。1点はオンラインで、リトミックとか音楽教室をやることの、いわゆるリアルな教室との違いというか、オンラインならではのよさみたいなものがあれば教えていただきたい。2点目は、問題点課題のところは事業の認知と書かれているが、どういう形で事業の周知を図り、結果的にオンラインやリアルの交流事業の、参加者の地域ごとの内訳はどうなっていたかを教えていただきたい。

説明者 まずオンラインでイベント等を行うものとリアルの違いだが、コロナ禍ということで、安心して親子でおうち時間、お家であってもわくわく楽しい時間を届けたいという思いでやってきた。まずオンラインでどこまで楽しい時間が届けられるかというのが、最初の課題かなと思っていたが、思っていた以上にオンラインでも参加者との交流が図れるというのを実感した。一対一でも皆さんが見てる前で話したり、あるいは一対多で反応を見たりということもできて、こういった時期に家にいながらという中では、楽しい時間を届けられたのではないかと思う。ただ完璧ではないし、やはり集まれるのであれば、リアルのコンサートに行きたいという声もあったので、相互に補完し合うような関係で提供できたらよりいいと思っている。もう1点オンラインでやってよかったなという点は、やはり離れた地域の方も参加できる点である。例えば宮城県から離れた方も参加できたりとか、宮城から離れて青森や岩手に行ったという人も今回は参加していた。岩手から以前いた青葉区の子育て広場の人に連絡してあげるといった方もいたので、そういったこともオンラインならではの魅力だと思う。

次に事業の認知についてだが、今年は印刷とSNSを両方使っている。印刷物は毎回5000部ほど印刷して、市内の幼稚園を中心に配布している。幼稚園と保育園

に持参をしたが、こちらのやってみての感覚ではあるが、保育所さんは設置する場所が多く配布が少なかった。あとはコロナ禍だったので、伺うのを控えて欲しいということもあり、保育所は少なかった。逆に幼稚園は配布を積極的にしてくれる園が多かった。今回の第3回はまさに幼稚園、保育の年代が対象なので、4、5,000部ぐらいは幼稚園となっている。仙台市内のママたちに届けるという点では、印刷がまず目についてアクセスしやすいかなということで用意した。もう一つはオンラインだが、若いお母さんたちでは SNS ツールに長けた方が多いので、私と副団長を中心に投稿シェアというのをしていた。そういったメディアを通じての参加は全国の方が多かった。参加数は毎回大まかに取っていたが、半数は仙台市を中心にする宮城の方である。それ以外の方が残りになるが、やはり近い東北エリア、関東エリアが多かった。まだ北海道、九州の方は参加したことがなかった。第1回目ではバンコクから参加した方が1人いた。

委員 2点ほどだが、LINEの活用という話があったと思う。いただいた報告書に現在の登録数が明記されてあるが、この辺りは目標値にあたるのか、あるいはこれまでの取り組みの中でどのように活かされたなど、少し補足いただければと思う。

説明者 初年度ということもあり、目標値は最初の提案書ではもう少し高く出していた。やってみて思った点は、今回300、280という数だが、ご家族で一つ登録という形になるので、280世帯と考えるとそれなりに大きな規模なのかなと思っている。第1回目の参加者が70前後だが、これも70人ではなく70世帯になって、1画面の中に、親子で2、3人が入っていたので、今の時期にリアルで100名以上の会は難しいことを考えると一定の成果はあり、現実的な数なのかなと思う。毎回100ずつぐらい増えてきている形になる。LINEを使った点については、継続的に発信できる、次回も参加しやすいという点では、アクセスツールとしてはよかったと思う。他のものだと例えば他のメールに埋もれてしまったりするが、LINEならこの公式アカウントをフォローしていただければ、ずっとこの公式アカウントの中では続きで見ているので、参加方法などの確認もしやすかったかなと思う。

委員 もう1点、報告書にもあるが、オンラインでの地域密着型はどのようなイメージというか、そのあたりを構想していたことと、実際やってみてどんなふうに捉えていらっしゃるか、少し補足いただければと思う。

説明者 当初考えていたのは、青葉区の未就学児ママさんのおはなし会や、あるいは小学校前のママ達が、先輩ママに聞くというような、地域と年代とテーマを絞って、オンラインの会の後に談話会みたいなものをするというのを想定していた。我々もまだ初めての回だったので、そのあとの流れまで上手く誘導したり、企画も今回はできなかったというのがある。

委員 参加者の地域を伺うと半分ぐらいが仙台市外の方であったり、仙台市の中でもおそらく青葉区だけではなく、広範囲のご参加だとすると、住んでいる所が近い方のリアルな関係を作るというのは難しいだろうと思う。オンラインを活かすとすると、テーマとか少人数の中でのコミュニケーションなら、時間などを飛び越えて交流しやすいという利点を活かせると思うが、一定程度人数が多くなると、なかなか地域性をどうとらえるかというのは、お声がけやお誘いするにも難しいなと思い、イメ

ージのすり合わせであえて伺わせていただいた。

④ 「落合栗生地区歴史めぐり」運営委員会

委員 歴史はハード面の話だと、この建物がこういうものだというような看板を取っておけばいいと思うが、例えば栗生や落合っていう地名の由来だとか、地域に昔からいわれている昔話だとか、ソフト面の話となると意図的に残さないと消えてしまうと思う。なので、そういうものを口伝集みたいで、本などで残すというのが一つあるかなと思った。

説明者 1 ご参考にしていきたいと思う。長年住んでいる方たちがたくさんいらっしゃるのので、いろいろな話を探していきたい。

委員 結構偉大な発見があったり、昔話などをきっかけに歴史に入っていく人たちもいると思うので、よろしければやってみていいと思う。

委員 地域の歴史や史跡を生かした地域づくりは素晴らしいと思う。案内板を設置したが、そういう具体的なものを設置する活動には人が来るが、そのあと案内板をどうやって生かしていくかという、これを継続するのはなかなか難しいと思う。ボランティア養成学習を4回行ったということだが、1回当たり何人ぐらいが参加していたか。

説明者 1 今のところは15名前後参加している。

委員 それからチラシを町内会などをお願いして配布したということで、いろいろ反響があったということだが、反響を寄せた人はどのくらいだったか。

説明者 1 連合町内会などの協力を得て、町内会の方に配っていただいたということで、集計はしていないが、15名いる会員がそれぞれ2、3名ずつは確実に声をいただいている。あとは個人的な話だが、自分の友達を呼んでチラシを配布したり、行ってみようということで案内させて頂いたりもした。

委員 できればチラシの効果がどのくらいかということで、人数なども統計をとっていただくといいと思う。

委員 このチラシの甲斐もありガイドをして欲しいという声掛けがあったという話があったが、このチラシは4年度も配るといってお話だったが、中身は同じような内容になるのか。

説明者 1 今ご覧になっていただいているのが今年のチラシということで、2月1日に全町内会に配られる予定になっている。昨年度のチラシを見て聞きたい伝えたいというような形で、チラシについても会員で検討して、今年のチラシの形を決めたので、住民の声なども今度載せられれば、また面白いのかなと思っている。

委員 皆さんにガイドをしていただけるといって、そういったこともどこかに書いてあるといいと思う。案内板ができてどこに何ヶ所あるかということは十分見えるが、そこをもとに皆さんのガイドがつくととなると、また見え方も違うだろうし、おそらくコミュニケーションを図られることも生まれてくるだろうと思う。このリーフレットについても、これを受け取る対象者がだれかと考えると、これを基にどういったらアクセスできるのかというあたりもほしい。あとは2月にやるガイドの様子など、

何分ぐらいで回れるかとか、独自にコースを回る方法と、皆さんに付いていただいて回る方法があるという、そういった情報の提供もされると、おそらくお声がかかることも増えてくるのではないかと思う。既にそういうこともあるのであれば、それをアピールされることに動いてもいいと思う。

説明者 1 ガイドについてもまだまだ勉強中なので、これからいろいろな活動をつなげていきたい。

説明者 2 今年度はチラシを作るということを行ったが、まだやっていることが点の活動なので、これを来年度は線の活動にしていこうという風に考えている。今の説明の中で10ヶ所、こういうところがあるというところを説明したが、その10ヶ所をどのように案内していくかも踏まえて、まだまだいろんなところがあると思うので、それを踏まえて来年度のリーフレットを作っていきたい。先ほどご意見いただいた内容も踏まえて、ガイドをやるということもその中にも織り込んでいきたいと思っている。今年度は駆け足でいろいろ作ってきたというのが実態である。

⑤ 白沢カルデラプロジェクト実行委員会

委員 まず2点ほど確認したい。歩く会の実働部隊の方々が実際に参加してみて、感想などがあったと思うが、どのような反応があったか。

説明者 カルデラそのものをしっかり知らなかったとか、こういうのが愛子の断層なのかとかいう反応があった。広瀬川を見せに連れていくと、自分たちですら意識して見ないとわからないものである。自分は広瀬川で子供の頃に泳いだ経験があるが、その頃は凝灰岩そのものを知らなかった。実際に歩いて、これが凝灰岩だとか十分勉強した次第なので、ようやくここへ来て火山がわかってきた、原因があるのがわかってきたっていうのが現在のところである。

委員 普段遊んだり見ている風景と、学術的に理解してきている風景だと、また見え方が違ってくると思う。もう1つ、ジオパークということがあったが、ジオパーク化した後はどのように活用するかという想定はあるのか。

説明者 自分も広瀬川の名所というと、鳳鳴四十八滝や、大倉ダム近辺ぐらいしか頭になかったが、主流を歩いてみると知られていない名所がいっぱいあると感じた。ジオパークとして見るところが多くあると感じているので、今は全国でジオパーク化している場所が多いが、そういうことを仙台市が働きかけて動いてくれるとありがたいと思っている。

委員 地域の住民の方だとか、小学生中学生の間で広まっていくと、より活動の認識とか地層の重要性みたいなものが広がってくると思う。

説明者 活動が落ち着いてきたらそういうことも考えていきたい。

⑥ 栗生の民俗をたずねる会

委員 貴重な資料をまとめることができて本当によかったと思う。今の謡を実際に実演できる人はどれぐらいいるのか。

説明者 先ほどの4名の方を合わせて、大体6名から8名ぐらいと聞いている。

委員 これを次代に伝承していくような、人材を育成することも考えているのか。

説明者 できればやっていきたい。ご存知ない方がすごく多いので、これからまずは老若男女問わず知っていただいて、謡を実際にされる方がいらっしゃるうちに、できれば最初は小さなイベントから始めて、そのうちに継続的に、そういうような団体などになっていただけるように、小学校とかにも働きかけたいと思っている。

委員 謡がその地域で残っているということは、とても素晴らしいことだと思う。謡だと仕舞と一体になっていることもあるが、そういったものは地域に残っていたりするか。もしあるのなら、両方見ることができればとても素晴らしいと思うのでお尋ねした。

説明者 おそらく伊達家の方から何らかの形で伝わったのではないかという考察もあり、能舞台があったのではないかという伝説も地域にはあるが、この謡は1曲1曲が独立して、高砂とか浪花というふうになっており、どうやら本筋のものとは節回しが違うようである。なので1曲1曲が単独で、例えば地域の区切りというか、特殊な場面で謳われるということであり、人々の生活の中で儀礼的に謡われていたという形のようなものである。

⑦ 定禅寺リビングストリートプロジェクト

委員 今後の課題として、テントやテーブルセットなどの保管場所に困っているということだったが、普段はどういう状況で保管しているのか。預かってもらっているのか、倉庫に入れているのか分からないが、どんな状態で運用しているのか。

説明者 各店舗の軒先か、夜間は基本店舗の中など、敷地内で保管していただいている。急な雨の場合は軒先にて対応し、夜は8時になったら必ず店舗内に入れて、人が触れないような形でやっている。朝10時の開店と同時に、お店から出して置く形である。なので軒先の前のものに関しては、風で飛ばされそうな場合などは、お店にいる方たちで危険がないように対応している。

委員 テントとかはどのようにしているのか。結構大きいと思うが。

説明者 テントは保管していただける場所がある方をお願いしている。

委員 それでは毎日開いたり閉じたりして頂いていたのか。

説明者 テントはイベント期間中だけだったので、それはテントの出店者にやっていただく形である。休憩場所は、お客さんが多い店舗をお願いするなど、協力し合っていた。

委員 最後の口頭でお話をされた点が非常に印象的だった。かつての町内会がなくなり、新しいコミュニティがこういう形で立ち上がってきたというところで、おそらく新しいコミュニティの一つの突破口になったのが、外のプレイヤーをどう入れるかという繋ぎみたいなどころにあると思うが、新しいコミュニティと言っていた今の形は、旧来のものとどういった点に違いがあるのか、あるいは、その外のプレイヤーの組み込みができたことその他によかった点があれば教えていただきたい。あとはどこに課題があるのか、定禅寺通活性化検討会が解散するのも一つの課題になってくる

点かと思うが、その辺を教えていただければと思う。

説明者　　まずコミュニティ自体を新しく始める時に、最初に町内会を復活させるべきなのかを聞いたところ、それはいやだという声があった。であればどういう形だったらできるのかという話をしたら、年に1回ゴミ袋をみんなに配るような活動ではなく、テーブルと椅子を置くという、協力し合ってやっていけるようなこと、もっとお店側に利益が上がるようなことで協力し合えよという感じになって、それでコミュニティができた感じである。今後活性化検討会がなくなることで、協力してくれない人が増えてしまうのかもしれないが、ただこの活動を続けていくことでこれが浸透していくと、やってみたいと思ってくれる人もいるので、地域の人を中心に協力してくれる人を集めていって、このテーブルと椅子のセットやマルシェのみではない地域の集まり、グループができればなど思っていた。質問とは違う答えかもしれないが、そういうふうには私は考えている。

委員　　リビングストリートやリビングストリートマルシェに来た方、要するに来街者の方々の評価や反応は記録を取ったりはしているか。

説明者　　ウェブ上でアンケートを行い、それらのデータを協力していただいている都市デザインワークスの方にどんどん集めていただいている。もちろんいい言葉だけではない。あとはこちら側の店舗側、運営側でお店の方たちの意見も集めている。家賃を払っていただいているので、たくさんものを集めてデータを作り、なるべく上手くいくように考えて行動はしている。

委員　　街に来た方々の評価というのは、実際いい評価が多かったのか、あまりよくない評価が多かったのか。

説明者　　おしなべて高評価をいただいている。ただそれだけを見るのはよくないと思っ
ているので、なるべく悪い言葉とかお話をいただき、真摯にフラットな目からの
気持ちで聞くようにしている。

委員　　そういった改善すべき点が出てきたときに、多分来年以降の活動にすごく参考
になると思うので、多角的に意見を聞いていただくようお願いしたい。

⑧ 一般社団法人 IKIZEN

委員　　アンケート調査というところでお伺いしたいが、補助資料という形で我々の手元
にいただいているものがダイジェスト版という理解でよろしいか。

説明者　　これが全体である。

委員　　ここでの議論の本旨の部分に関わるものではないのかもしれないが、これで調査
費10万円というところ若干高い気がする。今はGoogle関係でアンケートの項目を作る
のも敷居が下がっているんで、この数であれば自力でも集計ができるものなので、
若干中身として金額的に高いのではないかと思う。むしろこの調査からどういうふう
に事業に生かしていくかという、アドバイスのなものも含めてであればわからなく
はないが、その点を何かご説明いただけることがあれば教えていただきたい。

説明者　　アンケート調査については、今年度は最後の決算では10万円から下がっている。
その点についてはおっしゃる通りだと思うので、来年度の予算設定のところではい

ろいろと考えていきたいと思っているが、我々だけではどうしてもそのアンケートのデータを出すところまで手が回らないこともあるので、外注委託という形で引き続きやっていく形にはなるかと思う。

委員 外国人コミュニティへのアプローチの件だが、依頼したところが難しかったという話だったが、その辺はどういったことが要因となったか。

説明者 ここもコロナが結構影響しており、外国人コミュニティの中でクラスター発生ということもあったので、なかなかコミュニティの中から外に出てきている人が少ないということがあった。外国人は外国人で固まってしまうという状況で、万が一何かあったらということも大いに影響していたところである。

委員 何かしらの情報交換、コミュニケーションはとれていたものの、実施時はコロナの影響で実際に参加に至らなかったという捉え方でよろしいか。コロナがなければ一定程度の情報交換やコミュニケーションなど、アプローチはしていたということか。

説明者 アプローチはしていたがというところで、やはり今後の大きな課題である。

委員 防災という切り口もあると思うが、ちょうど手元に受け取る部分というところで、展示などがあったようだが、参加した方々から具体的な反応が出たような情報とか、当日や後々に、そういった情報はなにか出たのか。参加した方が、ここに参加したことをきっかけに、次のアクションに結び付いたかどうか。

説明者 今回展示したパネルというのが、被災各地の復興状況が提示されている 10 枚もの綴りのパネルになっており、被災直後の状況と復興後の状況を比較できる展示となっている。聞いた反応だと、このパネルを見て後日に沿岸部のほうに家族で行かれたという声はいただいている。

⑨ 折立素敵物語実行委員会

委員 準備段階から始まり、当日の楽しさが非常に伝わってきた。1,200 人来場されて、それを超えると厳しいというお話だったが、例えば若手の人に参加してもらおうということであれば、PTA の人たちに少し参加してもらおうとか、そういったことは可能か。

説明者 今回 1,200 というのはおおよその数字だが、人数の対応について考えなければいけないとなった根拠は、あまり広い公園ではないので、ピカボードや装飾品を展示する場所の配置を考えるべきだったと思ったのが一つ。あとは来場者が車で来るようになった関係で、近くの野球場を使って駐車場にしたが、そちらの方も車がいっぱいになってしまった。その辺は、近場の人はなるべく歩いてくるようお願いしなければと思っている。それから今年は小学校で 50 周年の記念事業をやるという話が出たので、それに乗っからせてもらい、ピカボードを全校生徒で針を 1 本なり 2 本なり刺して作ることにしてもらった。子どもたちが自分たちで作ったものだというので、当日は前の年に比べて、若いお父さんお母さん方が多かったと思っている。PTA から今年が終わった後に、来年何かに参加させてくれというふうな声もあったので、それも次回以降のイベントの際に考えていこうと思っている。

委員 非常によいすばらしい取り組みを見せていただいたと思う。人数が多くなって大変だったというお話だったが、実行委員の方のご負担は重々承知の上だが、1日だけではもったいないと感じた。折立は私も遠くないところに住んでいるが、車でないといけないもので、こういうイベントがあれば見に行きたいと思う。ただ駐車場がいっぱいになってしまうなど、いろいろな事情はあろうかと思うが、あともう1日ぐらいできるといいと思う。人数を多く集めるのが目的ではないとは思いますが、こういう取り組みができるかもしれないという、そういう面が波及効果としてあるのかなというのもある。ご検討いただければと思う。

説明者 1日でも大変で、しかも2時間だけだった。ペットボトルランタンの蠟燭が保ってそのぐらいだということで、2時間にした。あと次の日もやるという部分については、設置した場所が公園で、いろいろな電源設備などが何もないところなので、それを1回取り外して保管して、また次の設置となるとなかなか難しい。その日のうちにも来場者から、せっかくやったのにもったいないと言われていた。公園にある電気をそのまま使わせてもらえるといいが、なかなかその辺も実現が難しいということで、発電機を持っていったの作業だったもので、もったいないのを覚悟の上でやらせていただいた。他の同じようなイベントをやっているところでは、何日間もやっているのに、うちのほうでもそのようににできればいいなど、反省会の中でもそういう声はたくさん上がってきていた。

(3) その他

4 閉会